

堺臨海部再生・創造ビジョン(案)

～みんなで創り、楽しみ、伝えよう堺の海辺！～



堺市

はじめに

堺市におきましては、本市が将来にわたり発展を続けるため、取り組むべき都市経営の基本戦略、政策の方向性を示した「堺市マスタープラン」を平成23年3月に策定いたしました。その中で、めざすべき堺の将来像『未来へ飛躍する自由・自治都市～安らぎ・楽しみ・活躍する場として「希^{のぞ}まれるまちへ」～』を掲げ、特に重点に取り組むプロジェクトとして、3つの挑戦「子育てのまち堺・命のつながりへの挑戦!」、「歴史文化のまち堺・魅力創造への挑戦!」、「匠の技が生きるまち堺・低炭素社会への挑戦!」をもとに様々な施策を展開しているところです。

そうした中、堺の臨海部は、これまで国際物流・産業拠点あるいは漁業の場として、本市のみならず近畿・関西の発展に大きく貢献してきました。一方では、近年、高齢社会の到来や人口減少社会への移行において、人々のニーズは多様化しており、これに対応し、都市の活力・魅力を高めることが求められています。このため、臨海部のもつポテンシャルを活かしたハード施策だけではなくソフト施策を含めた様々な施策を展開し、賑わい・憩いの場の創出、自然環境の再生・創造を図ることにより、魅力あるウォーターフロントを形成し、さらなる交流を拡大させるとともに、人や生き物、環境にやさしい海辺とすることが重要であり、その効果を市全体に波及させていくことが本市の持続的発展には必要であると考えています。

こうしたことから、海から発展してきた都市として堺臨海部が今後とも本市の発展に貢献していくために、今後20～30年先を展望した堺臨海部のあるべき姿及びその実現に向けた施策等を取りまとめたビジョンを策定することといたしました。その実現に必要な施策については、必要に応じて国や大阪府に対して、法制度の改訂や特区などの提案、実現に向けた課題解決に取り組みながら、公共による適切な役割分担のもと施策を効率的・効果的に展開していくとともに、NPO、市民、関係団体、企業への働きかけを進めていくものとします。

堺の臨海部は、かつて日本でも屈指の海浜リゾート地として、多くの市民や市外からの観光客が訪れていました。高度成長期以降は、砂浜や自然海岸が消失し、海と触れ合う憩いや癒しの場が失われています。一方、国、大阪府の上位計画において臨海部の市民開放を重要な施策の一つとして位置づけており、市民やNPOからもかつての堺の海の再生を望む声も多く挙がっています。

以上を踏まえ、かつての堺臨海部の海を再興し、すべての市民や訪問者に開放し、さまざまな市民活動を展開し、子どもたちに貴重な財産である海辺を継承することを主眼とすべく、本ビジョンのキャッチフレーズを「みんなで創り、楽しみ、伝えよう堺の海辺!」としました。

— 目 次 —

頁

はじめに

1. 堺臨海部再生・創造ビジョンについて

1.1	ビジョンの背景・目的	1
1.2	ビジョンの位置づけ	4
1.3	ビジョンの対象範囲	5
1.4	ビジョンの目標年次	8

2. 堺臨海部の課題・要請事項

2.1	堺臨海部の現状（強みと弱み）	9
2.2	上位計画・関連計画における堺臨海部の今後の方向性	24
2.3	市民・NPO・各種団体等のニーズ	29
2.4	堺臨海部の課題・要請事項のまとめ	34

3. 基本理念、将来像及び基本方針等

3.1	基本理念	39
3.2	将来像	40
3.3	基本方針及びプログラム戦略	40
3.4	プログラム戦略の展開地区	43
3.5	基本理念、将来像及び基本方針等のまとめ	47

4. 堺臨海部活性化方策

4.1	堺旧港における活性化方策	48
4.2	堺浜における活性化方策	54
4.3	堺第7-3区における活性化方策	59
4.4	浜寺水路における活性化方策	64
4.5	その他の臨海部における活性化方策	69
4.6	堺臨海部における活性化方策のまとめ	74

5. 施策展開及び目標

5.1	想定推進主体の基本的な考え方	75
5.2	施策展開にあたっての基本的な考え方	76
5.3	主な施策と展開目標	76
5.4	成果指標	79

6. 実現に向けて取り組むべき事項

6.1	推進体制	81
6.2	施策のマネジメントサイクルの推進	82
6.3	実現に向けて取り組むべき事項	83

＜参考資料＞

1. 地区別の活性化コンセプト実現に向けた課題……………	参- 1
2. プログラム戦略の概要……………	参-25
3. 活性化方策イメージ……………	参-26
4. 親水空間整備に係る目標設定……………	参-39
5. 施策等の意向把握及び堺臨海部活性化検討懇話会の概要……………	参-41
5.1 意向把握（アンケート・ヒアリング）の概要……………	参-41
5.2 堺臨海部活性化検討懇話会の概要……………	参-41
用語集……………	用- 1

1. 堺臨海部再生・創造ビジョンについて

1.1 ビジョンの背景・目的

(1) 歴史経過

堺のみなとは、中世以降、世界各国との交易が盛んに行われ、人・物・情報が行き交う国際貿易都市として繁栄し、「もののはじまりなんでも堺」の原点として栄えてきました。昭和に入り臨海工業地帯が造成、生産・エネルギー基地として堺のみならず近畿の経済発展に大きく貢献し、近年はグリーンベイと呼ばれる先端・環境産業の集積が進むなど世界をリードする産業拠点に変貌しつつあります。さらに、京阪神圏の広域的な防災拠点（基幹的広域防災拠点）としての耐震強化岸壁や大阪都市再生環状道路の一部となる大和川線の整備が進み、物流・交通機能の利便性が飛躍的に向上することから、更なる産業・物流拠点としての発展が期待されます。



出典：堺市立図書館 HP より

図 南蛮貿易で賑わう堺のみなと



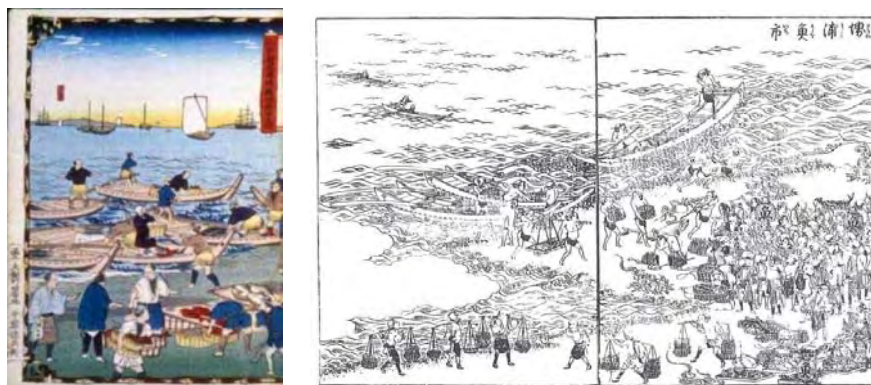
出典：堺市立図書館 HP より

図 泉州堺港新地繁栄之図
(天保7年(1836年)頃)



図 グリーンフロント堺（現況）

また大阪湾は淀川、大和川などの河川が流入しており、餌料生物が豊富で、かつて、茅渚^{ちぬ}の海と呼ばれるほどの昔から有数の生産性の高い好漁場で、鎌倉時代から「大魚夜市」の行事が伝わるなど漁業の根拠地としても発展してきました。



出典：堺市立図書館 HP より

図 鎌倉時代から続く大魚夜市の風景

このほか、室戸台風、ジェーン台風、第二室戸台風など過去に幾度となく受けてきた高潮の被害を教訓に、背後に集積する人々の生命、財産を守るため、防潮堤等の海岸保全施設の整備が進められ、安全・安心な市民生活を支えています。



出典：堺市立図書館 HP より

図 昭和 25 年ジェーン台風による被害



図 海岸保全施設（現況）

(2) 現状

堺臨海部は、国際交易・産業・防災の面で、市域のみならず近畿の発展に貢献してきた一方で、埋立や直立護岸化により、昭和初期までの白砂青松が広がる大浜や浜寺の海岸における海水浴・潮干狩り・夕涼み、水族館や潮湯などが立地する一大リゾート地としての賑わいや憩い・癒しが感じられなくなり、沿岸部の幹線道路による分断もあり、市民と海との触れ合いが疎遠になりました。



出典：堺市立図書館 HP より

図 潮湯・海水浴場



出典：堺市立図書館 HP より

図 水族館

また、砂浜・干潟の消失、埋立に伴う海底の深堀により、海の浄化能力の低下、貧酸素水域の発生、生物の生育の場の消失といった課題も生じています。そこで、**海辺の景観を改善し、堺旧港や旧堺燈台などの歴史・文化資源を観光・集客に更に活かしていく必要があります。**

一方では、残された臨海部の公有地の有効活用による市の更なる発展、貴重な公有水面の保全のための海面廃棄物処分場の延命、循環型社会や低炭素社会、生物多様性をめざす自然共生社会の形成に向けた役割や貢献も臨海部には期待されています。

このように、これまで堺の発展のエネルギーや生活の恵みは海からもたらされてきたことから、今後とも、**高齢社会の到来や人口減少社会への移行に伴う人々のニーズの多様化に対応し、また都市の活力・魅力を高め、市民の満足度や来訪者の増加を図るためには、海辺をどのように活用していくかが、大きな課題の一つです。**

このため、産業・物流機能の維持・拡大を図りつつ、臨海部のポテンシャルを活かした様々な施策を展開し、魅力あるウォーターフロントを形成することにより、**市民に海辺を開放し、来訪者を含めた交流を拡大させ、また人や生き物、環境にやさしい海辺とするなど、臨海部の活性化（交流人口拡大・雇用創出・税収拡大等）を図ることが、本市の持続的発展には必要です。**

(3) 目的

「海から発展してきた堺市」という歴史経過を踏まえ、臨海部の諸課題・要請事項への対応を通じて臨海部の活性化を図るため、由緒ある堺の歴史・文化資源と近年のグリーンベイとよばれる環境・先端産業の集積や J-GREEN 堺などの新たな資産との融合を図りつつ、政令指定都市にふさわしい魅力溢れる堺臨海部の将来のあるべき姿、施策の方向性等を示したビジョンを策定するものです。

1.2 ビジョンの位置づけ及び効果

堺臨海部は、低未利用な状況にある公有地の利活用、海域や海辺の公共用水域での自然環境の再生・創造、市民・来訪者のための親水空間の確保など、公が先導的な役割を果たしながら、まちづくりや活性化に向けた施策を展開すべき地域です。

また、実現にあたっては、国・大阪府・市民・企業・NPO など多様な主体に働きかけながら、適切な役割分担のもと施策を展開していく必要があることから、本市が率先してまちづくりを進めていく必要がある地域でもあります。

このため、本ビジョンは各種上位計画や関連計画を踏まえ、本市が主体的に取り組むべき施策を示すとともに、多様な主体への提案・働きかけを行う礎となるもの、臨海部での活性化の取組みの効果を市全体の活性化に波及させていくものです。

本ビジョンの展開により、活力・賑わい・憩い・癒し・潤いのある堺の海辺・みなとを再生・創造することにより、海から発展した都市として、堺の歴史・文化を後世に継承するとともに、都市の活力・魅力向上、産業・観光・漁業の振興推進、循環型社会・低炭素社会の構築、自然共生社会の形成、大阪湾の再生、子どもの健全な育成に寄与していくものです。

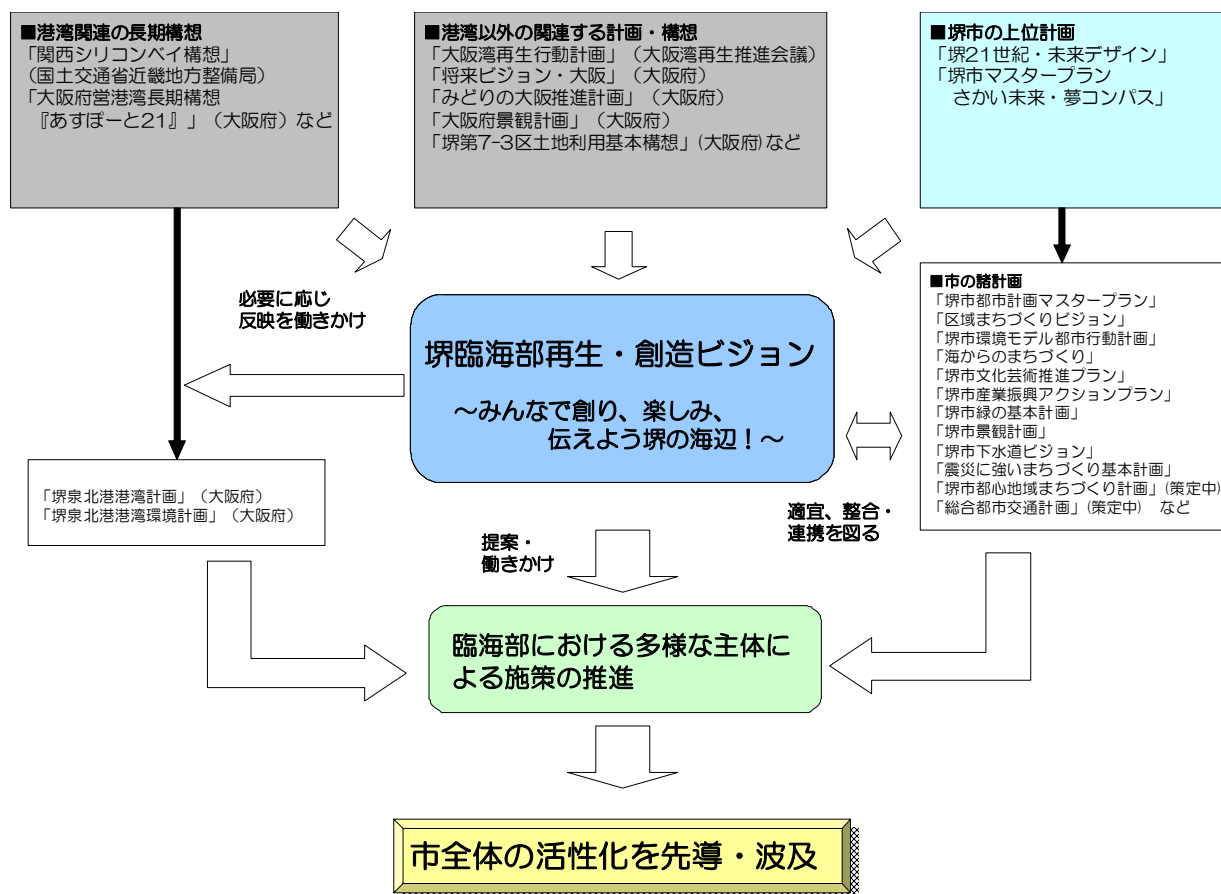


図 ビジョンと各計画の関連性

表 堺臨海部活性化により期待される効果

項目	内容
都市の活力・魅力向上、環境共生都市の実現への寄与	臨海部の環境再生・創造を図ることにより、賑わい、憩い、癒しなど活力・魅力ある「海から発展した堺」が再現され、また、低炭素社会・循環型社会の促進により環境共生都市・堺の実現に寄与する。
産業振興への貢献	臨海部の環境改善を図り来訪者を増加させることによる商業施設の立地、また、アクセス改善や遊休地の有効活用・高度利用を可能とすることにより、企業立地が促進されるなど産業振興に貢献する。
観光振興への貢献	臨海部の環境改善による憩い・癒し空間の整備、新たな賑わい拠点・産業と堺の歴史文化資源との融合により、海から発展した堺を再現し、更なる観光振興に貢献する。
漁業振興への貢献	干潟・浅場・生物配慮護岸の整備、深堀の改善により、稚魚などの生物の生息空間が確保され、また、貧酸素水塊の解消、水質改善が進み、漁業振興に貢献する。
市民の憩いの場や子どもの健全育成への貢献	干潟・浅場での海を眺め、海や生き物との触れ合いや環境学習を通じて、豊かな感性と情操を育み、次世代を担う子どもの健全な育成に貢献する。

1.3 ビジョンの構成及び対象範囲

(1) ビジョンの構成

本ビジョンは堺臨海部全体の基本理念・将来像・基本方針の下に、地区別の活性化方策、施策展開、取り組むべき事項を示すものです。

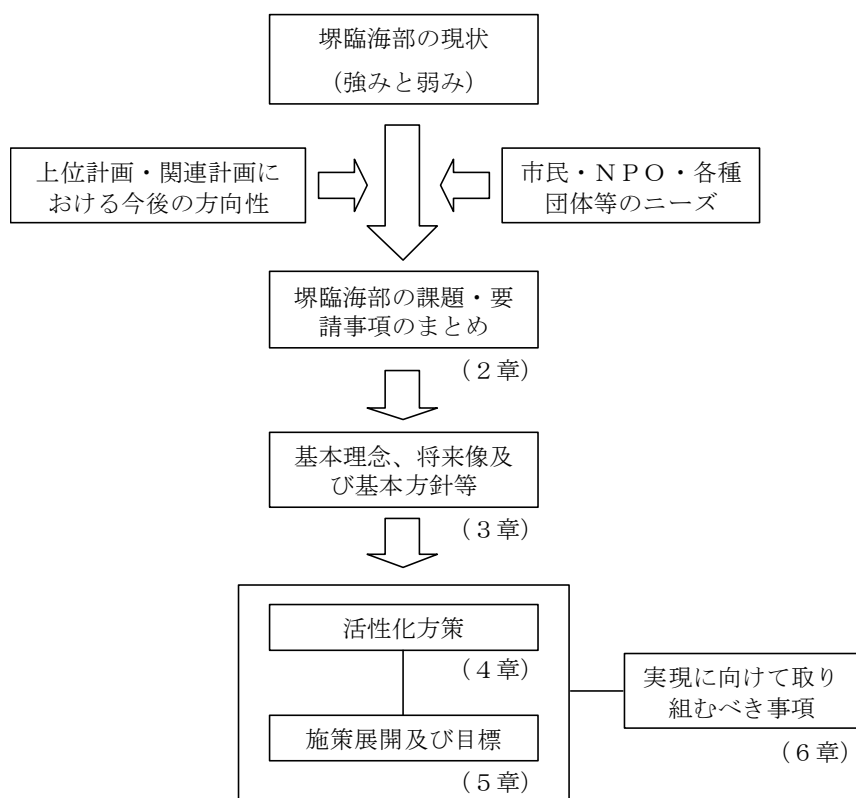


図 ビジョンの構成